

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 〔2022年11月1日放送分・北山町／通町〕

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

■ 芭蕉の辻から奥州街道(現在の国分町通～青葉神社通)を北上する旅の途中。今月は北九番丁を北に越えた所からです。いよいよ城下の北端が近づいて来ました。

■ と、ここで木村さん。歩いて来た道を振り返ってみようとおっしゃいます。言われたとおりにしてみると、あらためて驚いたのが、奥州街道は青葉神社につき当たるまで「芭蕉の辻」からず～っと一直線なんですね。双眼鏡でのぞいたら、遠くに「芭蕉の辻」が見えるかもしれません！去年歩いた、奥州街道の「芭蕉の辻」より南側は、広瀬川が西から迫ってくる地形上の制約や、防衛上の必要から道は何度も折れ曲がっていました。北側は地形上の制約もないばかりか、現在の岩手県南部まで仙台藩の領国だったこともあり、防衛の必要性が考えられていないのです。

■ ちなみに突き当りの青葉神社は、明治7年に伊達政宗を祭神として建てられた“新しい”神社です。明治政府は国家神道に舵を切りました。青葉神社の敷地は、かつて藩の庇護を得て寺格が高かった東昌寺の敷地の一部を譲り受けたものです。

■ そして今月の辻標は、通町公園の南のへりに立つ「北山町／通町」です。実はこの「北山」という地名、江戸時代の史料には今のところ見当たらないそうです。いちばん古いと考えられる正保年間(17世紀半ば)の絵図にだけ、この辺りは「芝山」と書かれているそうで、木村さんいわく、これは「柴山」つまり、薪や焚き木をとる山だったのだろうと。北山という地名は、明治に入ってからなのかも知れませんね。

■ その明治時代になると、周辺には競馬場ができた、後に通町を起点として中新田まで軽便鉄道が走ったりと、現在の街並とは違った様相を呈していた北山／通町界隈です。私達の歴史散歩も、いよいよ城下の北端に近づいて来ました。



〈文・佐々木淳吾〉